

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応

中期目標

医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、医療機器の整備・更新等を計画的に進めることなどにより、医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応した医療を提供すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>2 医療の質の向上（大項目）</u> (1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応 医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、計画的な医療機器の整備・更新を進めます。	<u>2 医療の質の向上（大項目）</u> (1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応				
	<u>ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上（小項目）</u> ・院外の学会・研修会等への参加機会を確保するとともに院内研修の充実	<p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務に関わる院外の学会や研修会等へ、法人負担での参加機会の確保に努めた。 <p>【院内研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療スタッフが日々高度化する医療知識、技術を身に付けていくため、各病院において、がん研修会やがんセミナー、基礎看護技術研修会、臨床検査研修会など専門分野に関する研修会、多職種を対象とした感染対策研修会、リスクマネジメント研修会等を実施した。 ○ 広島市民病院では、平成31年2月と同年3月に保険診療に関する研修を行った。 ○ 安佐市民病院では、平成31年1月に全職員を対象（中心は、各科主任部長、看護師長、技師長等の幹部職員）にして、病院経営に特化した特別講演を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の合同研修会の開催 ・看護師を対象とした市立病院間の交流研修の実施 	<p>また、ロボット支援手術を行うために必要な術者・助手等の研修を行い、胃がん、大腸がんの手術を開始した。今後、食道がん、肺がん、婦人科がんに対しても手術可能となるように研修会への参加、指導医を招へいしてのロボット支援手術の実施範囲の拡大に取り組む。</p> <p>○ 舟入市民病院では、平成 31 年 1 月に「重症度、医療・看護必要度」の知識と理解を深めるため、医師、看護師等関係職員を対象とした研修を行った。また、看護管理能力向上のため、マネジメントラダー（職位別管理研修）を平成 30 年 4 月から開始した。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、概ね月 1 回～2 回様々な研修を行っており、障害者雇用、FIM（機能的自立度評価表）利得、患者の権利・行動制限に関すること、高次脳機能障害などについての研修を行った。</p> <p>【合同研修会の開催】</p> <p>○ 新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。</p> <p>○ メンタルヘルス研修会（4 病院合同）を、1 回開催した。</p> <p>【市立病院間の交流研修の実施】</p> <p>○ 各病院の看護師の知識の習得や技術の向上を図るために、4 病院間の交流研修計画を策定した。</p>			

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価																						
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等																					
	<p>イ 資格取得の促進(小項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機能の向上に必要な資格取得の支援 	<p>【医療機能の向上に必要な資格取得の支援】</p> <p>○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進した。</p> <p>(資格取得の状況)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>職種</th> <th>平成30年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数(年度末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">広島</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・小児専門 1名 ・集中ケア 1名 ・栄養士 1名 (平成30年度末) 認定看護師 29名</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">安佐</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・特定行為研修修了者 1名 (平成30年度末) 認定看護師 18名 がん専門看護師研修修了者 1名</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舟入</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・皮膚排泄ケア 1名 (平成30年度末) 認定看護師 8名</td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリ</td> <td>看護師</td> <td>(平成30年度末) 認定看護師 4名</td> </tr> <tr> <td>療法士</td> <td>・回復期セラピストマネジャー 1名 (平成30年度末) 回復期セラピストマネジャー 3名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会】</p> <p>○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、地域がん診療連携拠点病院として、実施が定められている緩和ケア研修会を実施した。</p> <p>(広島市民病院) 研修日：平成31年2月3日、修了医師数及び他職種：42名 (安佐市民病院) 研修日：平成30年9月29日、修了医師数：19名</p>	区分	職種	平成30年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数(年度末)	広島	看護師	・小児専門 1名 ・集中ケア 1名 ・栄養士 1名 (平成30年度末) 認定看護師 29名		安佐	看護師	・特定行為研修修了者 1名 (平成30年度末) 認定看護師 18名 がん専門看護師研修修了者 1名		舟入	看護師	・皮膚排泄ケア 1名 (平成30年度末) 認定看護師 8名		リハビリ	看護師	(平成30年度末) 認定看護師 4名	療法士	・回復期セラピストマネジャー 1名 (平成30年度末) 回復期セラピストマネジャー 3名	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	職種	平成30年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数(年度末)																							
広島	看護師	・小児専門 1名 ・集中ケア 1名 ・栄養士 1名 (平成30年度末) 認定看護師 29名																							
安佐	看護師	・特定行為研修修了者 1名 (平成30年度末) 認定看護師 18名 がん専門看護師研修修了者 1名																							
舟入	看護師	・皮膚排泄ケア 1名 (平成30年度末) 認定看護師 8名																							
リハビリ	看護師	(平成30年度末) 認定看護師 4名																							
	療法士	・回復期セラピストマネジャー 1名 (平成30年度末) 回復期セラピストマネジャー 3名																							

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価									
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号								
	<u>ウ 診療体制の充実(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病動向や患者ニーズの変化に対応した診療科の再編等 	<p>【疾病動向や患者ニーズの変化に対応した診療科の再編等】</p> <p>○ 診療の専門性を明確にするとともに、疾病・治療の動向に対応するため、以下のとおり診療科の新設・名称変更を行った。</p> <p>(平成 30 年度に実施した診療科の再編)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>(新設) 脊髄内科</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>(名称変更) 整形外科・頭微鏡脊椎センター</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>(新設) 整形外科</td> </tr> </tbody> </table>	区分	内容	広島市民病院	(新設) 脊髄内科	安佐市民病院	(名称変更) 整形外科・頭微鏡脊椎センター	舟入市民病院	(新設) 整形外科	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	内容												
広島市民病院	(新設) 脊髄内科												
安佐市民病院	(名称変更) 整形外科・頭微鏡脊椎センター												
舟入市民病院	(新設) 整形外科												
	<u>エ 医療機器の整備・更新(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡下手術ロボットの更新(広島市民病院) 	<p>【医療機器の整備、更新】</p> <p>○ 広島市民病院では、内視鏡下手術用ロボットを、より性能が向上した最新機種へ更新し、平成 30 年 10 月から運用を開始した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3								

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(2) チーム医療の推進

各医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、良好なコミュニケーションの下でそれぞれの専門性を生かした高度で質の高いチーム医療を推進すること。

中期目標

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) チーム医療の推進（小項目） 個々の患者の病状や、緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的な医療を提供するチーム医療を推進します。	(2) チーム医療の推進（小項目） ・多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等のチーム活動の実施 ・認知症患者の増加に対応するための体制の検討（広島市民病院）	<p>【多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア等のチーム活動の実施】 【認知症患者の増加に対応するための体制の検討（広島市民病院）】 （広島市民病院）</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進している。また、医療の質改善委員会がチーム医療の推進の成果を把握し、全職員対象に年1回、成果の発表を行っている。なお、患者の状況によっては、患者の生活の質（QOL）の向上のため、これらのチームが複数で連携して医療、看護を提供している。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・緩和ケアチーム 麻酔科医師、外科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、医療相談員（M S W）で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体のつらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。</p> <p>・栄養サポートチーム（N S T）、褥瘡対策部会 皮膚科医師、外科医師、脳神経外科医師、形成外科医師、内科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士（P T）、栄養士、言語聴覚士（S T）で構成。全ての疾患を対象に栄養不良の入院患者を洗い出し、栄養不良となる原因に応じてチームでサポートした。こうしたチームの活動が創傷や褥瘡の治癒を促進する効果や術後の感染症併発を減少させる効果を上げた。第29回N S Tを本音で語る会秋期合宿の当番病院として、症例検討会・ワークショップ3ブース（皮膚排泄、褥瘡エコー、口腔ケア）を企画担当し、院外医療従事者等への研修を行った。</p> <p>・摂食・嚥下・口腔ケア部会（S E Kチーム） 耳鼻科医師、歯科口腔外科医師、理学療法士、摂食・嚥下障害看護認定看護師で構成。嚥下機能の正確な評価と経口摂取の方法、周術期口腔ケアの管理により患者の生活の質の向上につなげた。また、院内認定制度をつくり、スキルの向上を図った。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価												
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号										
		<p>・転倒・転落予防対策チーム 医師、リスクマネジャー（RM）、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士（ME）、施設担当者、理学療法士、作業療法士（OT）で構成。多くのメディカルスタッフが関わることにより、多様な角度から予防対策を講じた。</p> <p>・呼吸リハビリチーム（RST） 麻酔科医師、呼吸器科医師、集中治療認定看護師、救急看護認定看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師で構成。院内のICUで研修させるなど、従事する医療スタッフのスキルアップを図った。</p> <p>・通院治療センターのチーム医療 癌腫やレジメン（治療計画）、有害事象が複雑化する中、高度な知識と技術が求められる医師、看護師、薬剤師で構成。患者の病状やニーズに応じた適切な対応を行った。</p> <p>・リエゾン・認知症ケア部会 精神科医師、看護師、薬剤師、心理療法士で構成。せん妄・認知症のある入院患者のケアに当たった。また、従事する医療スタッフのスキルアップを図った。</p> <p>・在宅療養支援部会 看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。在宅で療養される患者の実態に応じた支援を行った。</p> <p>・周産期トータルサポートチーム 医師、看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。妊娠婦のメンタルサポートを行った。</p> <p>・子ども虐待防止委員会 医師、看護師、医療相談員、心理療法士で構成。小児期（18歳未満）の虐待防止のための支援を行った。</p> <p>○ チーム医療の推進成果発表会 多職種で活動するチーム及び看護の質の向上への取組についての活動成果発表会を実施した。（平成31年2月14日、参加人数97名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>チーム名</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西7病棟</td> <td>「入院時から始める退院支援を目指して」</td> </tr> <tr> <td>東6A病棟</td> <td>「新人教育を気軽にしましょうよ」</td> </tr> <tr> <td>救命救急センター</td> <td>「皆でやろう 早期リハビリ！早期離床！」</td> </tr> <tr> <td>中7病棟</td> <td>「チーム表って、いるんですか～？いらナイス！ひょっこり！」</td> </tr> </tbody> </table>	チーム名	テーマ	西7病棟	「入院時から始める退院支援を目指して」	東6A病棟	「新人教育を気軽にしましょうよ」	救命救急センター	「皆でやろう 早期リハビリ！早期離床！」	中7病棟	「チーム表って、いるんですか～？いらナイス！ひょっこり！」			
チーム名	テーマ														
西7病棟	「入院時から始める退院支援を目指して」														
東6A病棟	「新人教育を気軽にしましょうよ」														
救命救急センター	「皆でやろう 早期リハビリ！早期離床！」														
中7病棟	「チーム表って、いるんですか～？いらナイス！ひょっこり！」														

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価					
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号				
		<table border="1"> <tr> <td>N S T ・ 摂瘍対策部会</td><td>「N S T ・ 摂瘍対策部会活動報告」</td></tr> <tr> <td>放射線技術部</td><td>「帝王切開摘出産における放射線部門の取り組みについて」</td></tr> </table>	N S T ・ 摂瘍対策部会	「N S T ・ 摂瘍対策部会活動報告」	放射線技術部	「帝王切開摘出産における放射線部門の取り組みについて」				
N S T ・ 摂瘍対策部会	「N S T ・ 摂瘍対策部会活動報告」									
放射線技術部	「帝王切開摘出産における放射線部門の取り組みについて」									

(安佐市民病院)

○ チーム医療の推進は、患者に対し専門的、総合的な医療を提供するために不可欠なものであると同時に職員の職種間のコミュニケーションの活性化や職員の満足度向上にも寄与している。このため、全職員を対象に年 1 回、チーム活動の紹介や成果発表などを行い、活性化を図った。

各チームは、基本的に月 1 回、定例会議を開催し、ラウンドを実施した。

各活動の概要は以下のとおり。

・院内感染対策チーム

インフェクションコントロールドクター（I C D ※1）の資格を有する泌尿器科医師、総合診療内科医師、感染管理認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、臨床工学技士、保健師で構成。週 1 回の環境、感染対策の部署ラウンドや連携施設の感染ラウンドを実施し、点数化して開示することで感染対策や環境整備の意識付け、改善を図った。また、リンクナース（※2）の指導・教育を実施した。

※1 I C D : 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、多くの職種の役割を理解した感染制御の専門家

※2 リンクナース : 専門チームや委員会と病棟看護師とをつなぐ役割を担う看護師

・災害対策チーム

麻酔集中治療科医師、救急看護認定看護師、D M A T 登録看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、総務課職員で構成。災害対策の検討や各部署・全体でのシミュレーション研修等の訓練回数を増やし、増加する自然災害に対応できるよう取り組んだ。また、平成 30 年 7 月の豪雨災害への医療派遣に対応するとともに、B C P 作成に取り組んだ。

・医療安全対策チーム

リスクマネジャーの外科医師、看護師長を中心に小児科医師、外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士で構成。I A 報告（※）の分析・検討などを通じて、システム改善に取り組んだ。特に、薬剤に関する I A が多いことから、持参薬管理、服薬管理の見直しを行った。また、院内研修の企画・運営を行い、寸劇なども取り入れて、全職員が参加するようにビデオ（医療安全小劇場）研修も併用して、職員

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>の意識向上に努めた。</p> <p>※ IA報告：IAとはインシデント・アクシデントを指しており、それらが発生した場合IA報告を行う。</p> <p>・救急総合診療トリアージチーム</p> <p>総合診療内科医師、後期研修医、救急看護認定看護師、看護師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、医事課職員で構成。トリアージナースの育成を図り、トリアージの検証を行ってスキルアップを図ると共に、救急場面での課題や救急患者の社会的問題への対応などの検討を行った。</p> <p>・看護部褥瘡対策チーム</p> <p>皮膚排泄ケア認定看護師と各部署の看護師で構成。皮膚科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士などで構成される褥瘡対策委員会の下部組織として、各部署のラウンドを実施。患者ラウンドを強化し、直接的な指導・教育を図った。高齢患者も増え、スキンケア予防にも力を入れ、これに関するIA報告もなかった。</p> <p>・摂食・嚥下チーム</p> <p>脳外科医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士で構成。NST委員会の下部組織として、週1回のラウンドを行い、患者の口腔ケア、口から食べることへの支援を図り、栄養状態の改善、経口摂取が可能となる患者支援や誤嚥性肺炎発生ゼロなどを実践した。また、平成30年度は、誤嚥性肺炎のバスも作成した。</p> <p>・緩和ケアチーム</p> <p>精神科医師、麻酔集中治療科医師、放射線科医師、外科医師、内科医師、泌尿器科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士で構成。緩和ケアラウンドを定期的に実施し、身体的・心理的・スピリチュアルな苦痛の緩和や症状マネジメントなどの指導・支援を図り、患者のQOL向上を目指した活動をした。平成30年度は、リンクナースの教育に力を入れ、指導パッジや症状バスを作成した。また、エンゼルケアの質の向上と標準化を目指した。</p> <p>・呼吸サポートチーム</p> <p>呼吸器内科医師、麻酔集中治療科医師、循環器内科医師、外科医師、集中ケア認定看護師、呼吸療法士の有資格者や呼吸器を使用する部署の看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士、臨床工学技士で構成。週1回のラウンドを行い、呼吸器装着期間の短縮、人工呼吸器関連肺炎の減少などを図っている。ラウンドによって、一般病棟においても呼吸器装着患者の治療継続ができるようになってきた。また、平成29年度から「気管切開患者ラウ</p>			

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>ンド」を開始し、各部署の看護ケアOJTを実施することで、気管切開患者関連IAが減少し、学会報告もした。また、職員を対象とした研修会を2回開催し、毎回50～70名が参加した。</p> <p>・心不全サポートチーム</p> <p>循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学技士、医療クラークで構成。増加する心不全患者の再入院防止、QOLの向上を図るため、入院・外来患者・家族を対象とした心不全教室を月1回開催し、平成29年度より1.5倍の参加があった。院内患者会WAP友の会の集いにも参加し、小旅行の引率もした。また、心不全患者の在宅支援事業研修会、いきいきキャラバン研修会を開催した。更に、カンファレンス等を通して減薬への取組を積極的に開始した。慢性疾患患者の緩和ケアについても検討・普及を図った。</p> <p>・糖尿病チーム</p> <p>代謝内分泌内科医師、糖尿病認定看護師及び糖尿病療養士の資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。糖尿病患者・家族への治療・療養支援を行い、重症化予防に努めている。月1回の糖尿病教室の開催は、平成29年度の4倍以上の参加となつた。職員への研修は、年2回実施し、医療従事者の質の向上を図った。また、インスリン指示の統一化を図り、糖尿病関連IA報告件数が平成29年度を下回った。なお、オンライン診療の実施に向けた検討を開始し、令和元年度初期に保険請求ができる体制を整備した。</p> <p>・高齢者総合支援チーム</p> <p>総合診療内科医師、精神科医師、神経内科医師、循環器内科医師、外科医師、認知症看護認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成。高齢者のせん妄対策や退院支援、尊厳死に関わる問題の検討などに取り組んでいる。介入依頼件数が増加し、ケア算定件数も増加している。各病棟にリンクナースを配置し、教育・指導を図った。</p> <p>・ASA肝臓チーム</p> <p>内科医師、肝臓コーディネーターの資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、医療クラークで構成。慢性肝疾患患者・家族の支援、針刺し事故後の職員サポートを目的として活動した。年2回の職員研修を実施するとともに、2か月に1回肝臓病教室を開催し、参加者数も増加した。入院患者のB型・C型肝炎ウィルスキャリア者の受診奨励を図った。</p> <p>・排尿ケアチーム</p>			

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>泌尿器科医師、泌尿器科病棟看護師長、排尿ケア講習会修了看護師、薬剤師、理学療法士で構成。尿路感染防止と排尿ケアの自立を支援し、患者の活動性の向上、QOLの向上を図ることを目的に活動し、排尿自立の改善人數は141人で、依頼件数の85%と上昇した。また、その成果を学会で発表した。</p> <p>・<u>特定集中治療室早期離床リハビリチーム</u></p> <p>I C U専従医師、理学療法士、看護師で構成。早期離床プロトコルを作成し、平成30年4月から運用を開始した。対象患者のカンファレンスを行い、241人のリハビリ介入を実施している。2~3か月に1回、介入状況と成果を検討した。</p> <p>(舟入市民病院)</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・<u>栄養サポートチーム（N S T）、褥瘡対策チーム</u></p> <p>内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。定期的にカンファレンス及び患者訪問により患者個々に合った褥瘡予防、摂食指導等を行った。看護師はN S T専門療法士の研修を受講し、チームに参加した。</p> <p>・<u>緩和ケアチーム</u></p> <p>内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。週1回の症例検討や看取り後に行うカンファレンスを行った。患者の「最後まで自分らしく生きたい」その願いをサポートすることをコンセプトとしている。地域の病院からの緩和ケア患者を積極的に受け入れて連携を図った。</p> <p>・<u>摂食・嚥下チーム</u></p> <p>内科医師、歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。嚥下機能の正確な評価と口から食べることへの支援を行い、患者の生活の質の向上につなげた。具体的には、患者の口腔ケア、摂食時のポジショニング、食事形態の工夫などを行い、口腔内の機能を改善し、誤嚥性肺炎の予防、栄養状態の改善を目指した。</p> <p>・<u>院内感染対策チーム</u></p> <p>定期的な部署ラウンド、地域での相互ラウンドなどを実施した。院内での感染対策上の問題をI C T会議などで議論し、感染対策委員会へ提案、改善などを行った。</p>			

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>・医療安全対策チーム IA報告の事例検討やワーキング活動により対策立案や指針、マニュアルの改訂等を行った。院内研修の企画・運営も行い、職員の医療安全文化の醸成に努めた。</p> <p>・褥瘡対策チーム 皮膚排泄ケア認定看護師、医師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、各部署のリンクナースで患者ラウンドを行った。</p> <p>・虐待防止チーム 虐待を含む不適切な療養環境にある子どもや高齢者、障害児者、その家族に対し支援の方法を検討、実施した。虐待に関する院内研修の企画・運営も行い、職員の意識の向上に努めている。</p> <p>・小児救急トリアージチーム トリアージカンファレンスを定期的に開催し、トリアージの検証（アンダートリアージ、オーパートリアージ）や稀少症例の検討などを行った。トリアージナースの育成の他、小児救急看護分野の院内認定看護師の育成も行い、小児救急患者のアセスメント能力のスキルアップを図った。</p> <p>(リハビリテーション病院)</p> <p>○ チーム医療としてNST・栄養管理、摂食・嚥下、褥瘡対策などの活動を行っており、院内で活動状況の発表を行った。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・栄養サポートチーム(NST) 医師、歯科医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士で構成。定期的なミールラウンド後のカンファレンスにて、摂取状況等の把握も行い、リハビリテーションをより効果的に進めるための栄養管理を実施した。</p> <p>・摂食・嚥下チーム 医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士等で構成。摂食嚥下評価や摂食嚥下訓練・スタッフ指導等を定期的に行い、「口から食べる機能回復」に貢献した。</p> <p>・褥瘡対策チーム 医師、皮膚排泄ケア認定看護師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士で構成。定期的なラウンドにて、マット調整・起居動作・栄養状態の確認等を実施し、持込み褥瘡の改善や装具による新たな褥瘡の予防を実践指導した。</p> <p>・感染対策チーム</p>			

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>医師、看護師、セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、保健師等で構成。毎月の I C T ラウンドや部署内研修、感染対策マニュアルの改訂などを実施した。</p> <p>・リスクマネジメントチーム</p> <p>・転倒転落対策チーム</p> <p>転倒転落の事例を毎週集計し、必要時、原因・発生機序などを分析し、職員への注意喚起や情報発信等を行う。ベッドサイド環境のラウンドも実施した。</p> <p>・薬剤対策チーム</p> <p>薬剤関連（内服・注射・点滴）に関する I A を集計し、原因・発生機序を分析しマニュアル改訂や再発防止に向けた職員へのフィードバックをした。注射・点滴関連の衛生材料の検討も実施した。</p> <p>・その他の事例対策チーム</p> <p>離院・離棟、暴言暴力、給食関連、院内連携関連の I A を集計し職員に情報発信した。</p> <p>・離床促進チーム</p> <p>看護師、セラピストで構成し、リハビリ時間以外に身体能力強化訓練を実施した。毎日行う立ち上がり訓練や排便体操、教育サロンは、延べ 11,468 人が参加した。平成 30 年 4 月からは患者毎の個別の訓練を開始し、平成 31 年 3 月には入院患者の 90 % に実施できるようになった。</p> <p>・患者サービス向上チーム</p> <p>看護師、セラピストが企画し、筋力強化訓練、全職員が協力して患者参加のコンサートやリフレッシュ（嚙下・排便）体操、教育サロン、座談会などを実施している。開催頻度は月 1 回程度のものから毎日のものまであり、参加者は年間延べ 9,352 人であった。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(3) 医療の安全確保の強化

中期目標	医療事故や院内感染、ヒヤリ・ハットなどに関する情報収集・分析の実施、予防及び再発防止への取組などにより、市民に信頼される安全な医療を提供すること。また、医療安全に係る体制やマニュアルを継続的に見直すことなどにより、医療安全対策の強化を図ること。
------	--

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 医療の安全確保の強化（小項目） 市民に信頼される安全な医療を提供するため、医療安全管理委員会等が中心となり、医療安全に関する情報の収集・分析、医療事故等の発生防止や対応マニュアルの作成、院内研修の実施を行うことなどにより、医療安全対策を徹底します。	(3) 医療の安全確保の強化（小項目） ・医療安全対策の徹底 関連情報の収集・分析、対応マニュアルの点検、作成、院内研修等の実施 複数の医療機関と連携した医療安全対策に関する評価の実施 ・院内感染の防止 感染症に関する情報収集、院内の調査・監視、職員への指導・啓発等の実施 抗菌薬適正使用支援チームの創設（広島市民病院・安佐市民病院）	<p>【医療安全対策の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、医療安全管理室に専従の医療安全管理者2名を配置し、医療安全管理を行った。 ○ 安佐市民病院では、TQMセンター（医療安全対策担当）に、専従の医療安全管理者1名を配置し、医療安全管理を行った。また、庄原赤十字病院、JA吉田総合病院、野村病院及びメリハス西鳳新都病院の4医療機関と連携して、医療安全対策に関する相互評価を実施した。 ○ 舟入市民病院では、医療支援室に、専従の医療安全管理者1名を配置し、医療安全管理を行った。 ○ リハビリテーション病院では、医療支援室に専任の医療安全管理者1名を配置し、医療安全管理を行った。 ○ 各病院とも、事例検討会やワーキンググループ活動で、事例の改善策の検討や医療安全関連のマニュアル等の見直し・整備を行った。 ○ 各病院とも各部署に、リスクマネジャーを配置し、IA報告を取りまとめ、各職種で構成される委員会に毎月報告するとともに、毎月部長会などで報告し院内への周知・情報の共有化を図った。 <p>【院内感染の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、医療支援センターに専従の感染管理認定看護師1名を配置し、月に1回の感染対策委員会開催のほか、感染制御チームと抗菌薬適正使用支援チームを設置し、院内の感染予防と管理に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、インフェクションコントロールドクターの資格を有する医師等、感染管理認定看護師、抗菌剤化学療法認定薬剤師、薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師で構成した「AST（抗菌薬適正使用支援チーム）」を平成30年度に創設し、抗菌剤使用の評価かつ適正使用の推進を図るために、感染症治療のモニタリング、評価を行い、主治医にフィードバックするととも 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		に、微生物検査、臨床検査が適正に利用可能な体制を整備した。抗菌剤適正使用については、年 2 回の全職員研修を実施した。			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(4) 医療に関する調査・研究の実施

職員の自主的な研究活動を支援するとともに、治験を積極的に推進するなど、質の高い医療の提供と医療水準の向上を図るための調査・研究に取り組むこと。

中期目標

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 医療に関する調査・研究の実施（小項目） 職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めます。また、治験等の臨床研究の推進に積極的に取り組みます。	(4) 医療に関する調査・研究の実施（小項目） ・職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信 ・患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進	<p>【職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の自主的な研究の成果を発表する場として、院内機関誌の発行（広島市民病院「医誌」、安佐市民病院「業績集」）や学会での発表に配慮した勤務シフトの見直しなどを行った。舟入市民病院では、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。リハビリテーション病院では、学会発表や論文発表などを取りまとめた年報を作成し、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。また、広島市民病院では職員向けにインターネットによる文献検索サイトや国内外の医療雑誌を収録した電子ジャーナル及び研修医向け臨床医学情報サイトと契約した。 ○ 広島市民病院では、他大学等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、厚生労働省科学的研究委託費による岐阜大学、国立がん研究センターとの共同研究事業（2件）を行った。 ○ 安佐市民病院では、他医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、厚生労働省科学的研究委託費による静岡県立静岡がんセンター、愛知県がんセンター、埼玉医科大学及び京都府立医科大学とのがん治療に関する共同研究事業（4件）を行った。 <p>【患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、治験参加の同意を得る際には、副作用や参加のメリット・デメリットをより詳しく説明し、患者の理解を十分に得た上で実施している。 ○ 安佐市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。治験を実施する際には、患者に対して文書による説明を行った上で同意を得ている。 ○ 舟入市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		○ リハビリテーション病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。診療情報等を研究目的に利用するに当たっては、入院時に患者に対し文書で説明し、同意を得ている。			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
2 医療の質の向上	
(5) 災害医療体制の充実	広島市地域防災計画等に基づき、日頃から防災関係機関や他の災害拠点病院との連携を図るとともに、災害時には、病院機能を維持し、迅速に災害医療の提供を行うことができる体制を整備すること。

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
(5) 災害医療体制の充実（小項目）	<p><u>(5) 災害医療体制の充実（小項目）</u></p> <p>・災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施</p> <p>【災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施】</p> <p>(広島市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナース 31 名の登録を行っており、平成 30 年 7 月 6 日の広島豪雨災害時には、被災地の救護所へ災害支援ナース 5 名を派遣した。 ○ 広島市からの派遣要請により、平成 30 年 7 月 9 日から同月 31 日の間に、医療救護班として医師 12 名、看護師 12 名及び運転要員 8 名を被災地へ 9 回派遣して、避難者の健康管理、投薬指導等を行った。また、近隣の自治体や関係団体に対しても、医療救護班の派遣を行った。 ○ 広島県保健医療調整本部からの派遣要請を受け、平成 30 年 7 月 6 日から同月 10 日まで、D M A T の活動を行った。また、広島県が設置した医療救護班調整本部における、調整役を担うコーディネーターの派遣要請を受け、平成 30 年 7 月 25 日、27 日、30 日に医師が活動を行った。 ○ N P O 法人ひろしま感染症ネットワークからの依頼を受けて、「広島 I C N (国際看護師協会) の会」の会員（個人）に J M A T (日本医師会災害医療チーム) の感染管理に特化した活動への参加の呼びかけがあり、平成 30 年 7 月 18 日に、感染管理認定看護師が活動を行った。 ○ 広島市民病院では、広島県主催による D P A T (災害派遣精神医療チーム) の研修に医師、看護師及び M S W が参加し、広島県と派遣協定を締結した。 <p>(安佐市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナース 6 名の登録を行っており、平成 30 年 7 月 6 日の広島豪雨災害時には、被災地の救護所へ災害支援ナース延べ 7 名を派遣した。 ○ 広島市からの派遣要請により、平成 30 年 7 月 9 日から同月 27 日の間に、医療救護班として医師、看護師及び事務職員を被災地に 9 回派遣して、避難者の健康管理、投薬指導等を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島県保健医療調整本部からの派遣要請を受け、平成 30 年 7 月 6 日から同月 10 日まで、DMA T の活動を行った。また、広島県が設置した医療救護班調整本部における、調整役を担うコーディネーターの派遣要請を受け、平成 30 年 7 月 16 日、23 日に医師が活動を行った。 <p>(舟入市民病院)</p> ○ 看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナース 7 名の登録を行っており、平成 30 年 7 月 6 日の広島豪雨災害時には、被災地の救護所へ災害支援ナース 3 名を派遣した。 ○ 広島市からの派遣要請により、平成 30 年 7 月 11 日から同月 31 日の間に、医療救護班として医師、看護師及び事務職員を被災地に 4 回派遣して、避難者の健康管理、投薬指導等を行った。 <p>(リハビリテーション病院)</p> ○ 広島市からの派遣要請により、平成 30 年 7 月 14 日及び同月 24 日に、医療救護班として医師、看護師、薬剤師及び事務職員を派遣した。また、広島市・広島県からの派遣要請により災害時公衆衛生チーム（リハビリチーム）を派遣した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(1) 病院情報・医療情報の発信

中期目標	ア 診療内容や治療実績などの患者等が病院を選択する上で必要な情報、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促進する情報及び健康づくりや疾病に関する情報を積極的に提供すること。
	イ 病院の運営内容や経営状況についての情報及び医療に関する研究成果などの情報を、市民に分かりやすく発信すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
3 患者の視点に立った医療の提供（大項目）	3 患者の視点に立った医療の提供（大項目）			
(1) 病院情報・医療情報の発信 <u>（小項目）</u>	<p>(1) 病院情報・医療情報の発信 <u>（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報紙等を利用した病院の特色や治療実績等の積極的な情報発信に取り組むとともに、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報及び健康づくりや疾病に関する情報を市民に分かりやすい形で発信します。 ・病院の運営、財務に関する計画や実績、医療に関する研究成果等を市民に分かりやすい形で公表します。また、地方独立行政法人化の目的や効果について、広報します。 <p>・市立病院機構及び各病院のホームページの充実</p> <p>【ホームページの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、適宜掲載情報を更新するように努めた。 ○ 安佐市民病院のホームページは、閲覧回数が3年間で約2倍に伸びており、年間約30万回のアクセスがある。また、平成30年度には、安佐市民病院YouTubeチャンネルを開設した。 ○ 舟入市民病院では、他病院と連携を図り、ホームページに年末年始救急診療の待ち時間表示を行った。 ○ リハビリテーション病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、適宜掲載情報を更新するように努めた。 <p>・病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信</p> <p>【病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の扱った症例と施術内容、研究業績等の医療情報は、学会や、各病院のホームページ、病院の発行する広報誌及び情報誌で情報提供した。 ○ 広島市民病院のホームページにおいて、同病院の役割である救急医療コントロール機能（受入困難事案の救急患者を一旦受け入れて初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関へ転院させるもの）や地域医療連携についての情報を提供した。 ○ 広島市民病院では、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成しているインターネット上の文献データベースに「医誌」を登録し、掲載している論文の概要を公開した。 ○ 安佐市民病院では、ホームページに掲載している広島県がん診療連携拠点 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表</p>	<p>病院標準様式による「院内がん登録集計表」を平成29年診断症例に更新したことに加え、「院内がん登録でみる広島市立安佐市民病院がん診療の現状」と題し、同病院のがん診療の特徴を可視化して掲載を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、広報誌やホームページにおいて、地域医療連携についての救急医療体制の紹介及び窓口の明記を行った。また、病院正面玄関入口に登録医の医療機関の地図、紹介チラシを配置した「地域医療連携マップ」を掲示し、受診相談やかかりつけ医紹介に活用した。 ○ 小児患者の利用が多い舟入市民病院のホームページでは、夜間や休日などの診療時間外に病院を受診するかどうかの判断の目安を掲載するとともに、子どもの急なのが・事故・病気への対応が行えるよう、広島小児救急医療相談電話（子どもの救急電話相談）の案内や休日夜間の診療のための「小児救急の待ち時間情報」を提供した。 ○ 舟入市民病院では、地域の公民館と協働し、地域住民を対象に健康づくり活動を行った。主な活動として、健康情報誌「健康シップ」の創刊、公民館まつりへの参加、健康サロン（健康講座と健康チェックの組み合わせ）を行った。 また、地域のクリニックや訪問看護ステーション、介護施設、薬局などから医療職を対象に、舟入市民病院の認定看護師を活用した多職種合同地域連携研修会を年3回開催し、顔の見える連携の構築を図った。 ○ リハビリテーション病院のホームページでは、病院早わかりスライドショーにより診療内容や施設の概要について紹介している。また、広報誌により診療実績のほか診療科などの紹介や各種行事を掲載するなど情報提供に努めた。 <p>【病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院機構独自のホームページに、法人の基本理念や基本方針、中期計画、年度計画などを公表するとともに、財務諸表や事業報告書、業務実績に係る評価結果等を掲載した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(2) 法令・行動規範の遵守

中期目標	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、市立病院としての行動規範と倫理に基づき、適正な病院運営を行うこと。また、個人情報保護及び情報公開に関しては、本市条例等に基づき適切に対処するとともに、情報セキュリティ対策の強化に取り組むこと。
------	--

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(2) 法令・行動規範の遵守（小項目） 医療法を始めとする関係法令及び行動規範の遵守についての研修等を行い、職員の意識を向上させ、適正な病院運営に取り組みます。また、広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づき、個人情報を適正に取り扱います。	(2) 法令・行動規範の遵守（小項目） ・倫理・服務に関する研修の実施などによる服務規律の徹底 ・広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づく、個人情報の適正な取扱い	<p>【服務規律の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規採用職員を対象に平成30年4月に実施した研修において、服務規律に関する法人の規程を説明するとともに、過去の処分事例の紹介等を行い、服務規律の徹底を図った。 ○ 各病院において職員倫理研修を行い、服務規律の徹底を図った。 ○ 金品受領禁止や飲酒運転防止等、服務規律の遵守について、文書により職員へ周知徹底し、綱紀肅正を図った。 <p>【個人情報の適正な取扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づき、平成30年度はeラーニングにより、個人情報の適正な取り扱いについて、職員へ周知徹底を図った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(3) 安心で最適な医療の提供

中期目標	ア 患者の権利を尊重し、患者中心の医療であることを十分に認識するとともに、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応することで、安心して医療を受けられる環境を提供すること。
	イ インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底することで、信頼と満足の得られる医療を提供すること。
	ウ セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聞くこと。）の充実により、患者に合った診療の選択を支援すること。
	エ クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用拡大などにより、入院から退院まで安全・適正かつ効率的な医療を提供すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(3) 安心で最適な医療の提供	(3) 安心で最適な医療の提供			
ア 相談機能の強化(小項目) 安心して医療を受けられる環境を提供するため、医療支援センター等の相談支援体制を強化し、疾病や入院等に関することや、退院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応します。	ア 相談機能の強化(小項目) ・安心して医療を受けられる環境を提供するため、入退院支援体制の強化（広島市民病院） ・自殺未遂者支援コーディネーターによる相談業務の実施（広島市民病院、安佐市民病院）	<p>【入退院支援体制の強化等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタッフの増員などの体制強化により、地域の医療機関からのスムーズな患者の受け入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。 ○ 広島市民病院では、退院支援 2,474 件、退院時共同指導 112 件を実施した（平成29年度は退院支援 1,927 件、退院時共同指導 112 件）。 <p>【自殺未遂者支援コーディネーターによる相談業務の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に努めた。 ○ 安佐市民病院では、平成30年4月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号															
イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目） インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供します。	イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目） ・患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供できるよう、インフォームド・コンセントの徹底	【インフォームド・コンセントの徹底】 ○ 各病院において、治療方法の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供した。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3															
ウ セカンドオピニオンの実施（小項目） セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聞くこと。）を実施するとともに、市立病院の患者が、他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望する場合には、適切に支援します。	ウ セカンドオピニオンの実施（小項目） ・セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援	【セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援】 ○ 各病院において、セカンドオピニオンを自由に依頼することができる旨を院内に掲示するとともに、ホームページにも掲載し、患者への周知を図った。 (セカンドオピニオン件数(平成30年度)) ※()内は平成29年度 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病院が受けた件数</th> <th>他院を紹介した件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>115件(116件)</td> <td>61件(70件)</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>3件(8件)</td> <td>23件(25件)</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数	広島市民病院	115件(116件)	61件(70件)	安佐市民病院	3件(8件)	23件(25件)	舟入市民病院	—	1件(1件)	リハビリテーション病院	—	—	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数																		
広島市民病院	115件(116件)	61件(70件)																		
安佐市民病院	3件(8件)	23件(25件)																		
舟入市民病院	—	1件(1件)																		
リハビリテーション病院	—	—																		

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価																									
	年度計画	評価理由等	記号																									
エ クリニカルバスの活用拡大（小項目） <p>クリニカルバス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用を拡大するとともに、既存のクリニカルバスを適時見直し、良質な医療を安全、適正かつ効率的に提供します。</p> <p>【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度実績</th> <th>令和3年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>49.9</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>51.0</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>38.9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>62.5</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	広島市民病院	49.9	55.0	安佐市民病院	51.0	55.0	舟入市民病院	38.9	50.0	リハビリテーション病院	62.5	64.0	エ クリニカルバスの活用拡大（小項目） <ul style="list-style-type: none"> クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの見直し <p>【クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの見直し】</p> <p>○ 各病院とも、院内のクリニカルバス委員会において、クリニカルバスの活用拡大に努めた。広島市民病院では、新規に10件のバスを作成し、クリニカルバスの適用率の拡大に努めたが51.1%にとどまった。安佐市民病院では、新規に11件のバスを作成したほか、7件のバスのバージョンアップを行った。また、バスをバリアンス分析方法により再検討し、バスの最適化を行った。</p> <p>【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>63.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合</p>	区分	平成30年度目標値	広島市民病院	52.0	安佐市民病院	52.0	舟入市民病院	40.0	リハビリテーション病院	63.0	<p>3</p> <p>広島市民病院及びリハビリテーション病院のクリニカルバスの適用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。 引き続き、クリニカルバスの適用率の目標達成を図るとともに、既存のクリニカルバスの内容を適時見直すこと。</p>	<p>2</p>
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																										
広島市民病院	49.9	55.0																										
安佐市民病院	51.0	55.0																										
舟入市民病院	38.9	50.0																										
リハビリテーション病院	62.5	64.0																										
区分	平成30年度目標値																											
広島市民病院	52.0																											
安佐市民病院	52.0																											
舟入市民病院	40.0																											
リハビリテーション病院	63.0																											

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(4) 患者サービスの向上

中期目標	常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった応対ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ること。また、患者等のニーズを的確に捉え、療養環境の改善や待ち時間の短縮などに取り組むとともに、患者満足度の高いよりきめ細やかなサービスの提供に努めること。
------	---

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
	年度計画		記号	評価理由・コメント等	
(4) 患者サービスの向上（小項目）	(4) 患者サービスの向上（小項目）	<p>【接遇研修等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、接遇・身だしなみ自己チェックの実施、接遇研修会の開催、全部署への冊子「さわやかマナー」の配付を行い、接遇対応能力の向上に取り組んだ。また、年2回、病院幹部、医療の質改善委員会委員、研修医及び職員有志による正面・西側玄関での挨拶運動を実施した。 ○ 安佐市民病院では、平成30年度の年間目標を「あいさつはこころと心のキャッチボール」と定め、挨拶基本チェックの実施、接遇研修会の開催、挨拶強化期間を設けて職員全員の名札に年間目標の貼付、病院幹部職員と患者サービス向上委員会委員による正面玄関での挨拶運動の実施など、接遇の向上に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、病院全職員に対し元客室乗務員を講師に迎え、ホスピタリティ向上のための接遇研修を実施した。 ○ リハビリテーション病院では、接遇自己チェックを実施するとともに、接遇研修を職員が全員参加できるよう複数回開催した。また、センターの目標として挨拶・声掛けを掲げ（各執務室に目標を掲示）、接遇向上に取り組んだ。 <p>【アンケート調査結果を踏まえた対応の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、平成31年2月に入院患者と外来患者を対象とした患者アンケートを実施し、アンケート実施結果をとりまとめ、医療の質改善委員会で報告を行い、幹部会、部長会及び看護師長会を通じて院内に周知を図った。 ○ 安佐市民病院では、平成30年11月に患者満足度アンケート調査を実施し、調査結果を踏まえて、外来待ち時間の短縮に関する取組を実施した。 ○ 舟入市民病院では、平成31年3月に患者満足度アンケート調査を実施し、患者サービス委員会において調査結果を踏まえた対応を検討している。 ○ リハビリテーション病院では、患者満足度アンケート調査を年2回実施し、調査結果をホームページで公表した。また、院内のサービス向上委員会で調査 	3	安佐市民病院及び舟入市民病院の患者満足度が年度計画を下回っているものの、外来の待ち時間の短縮や患者給食の改善に向けた取組が行われており、全体としては年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。 今後は、患者満足度について、他病院との比較が容易となるよう、病院ごとに異なっているアンケート調査の内容等の整合性を図ること。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施 ・病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施 	<p>結果を踏まえた対応を検討した。</p> <p>【外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、中央処置室での採血の待ち時間の短縮を図るため、令和元年 11 月の改修を目途に採血ブースの拡張工事（3~4 ブース増設）に向けた調整を行っている。 ○ 安佐市民病院では、外来待ち時間の実態調査を平成 30 年 6 月、同年 10 月、平成 31 年 2 月の 3 回実施するとともに、外来患者数・採血患者数が多い外科及び消化器内科において、予約時間が適正となるように予約の取り方の見直しを行った。その結果、平成 31 年 3 月 1 日より、これまでの受付患者順から診察予約順に採血実施方法を変更した。これに伴うトラブルは出ておらず、患者が一巡する令和元年 6 月以降に効果が出てくるものと思われる。 ○ 舟入市民病院では、待ち時間の長い年末年始救急診療期間について、期間中の配置職員の見直し、検体搬送要員の配置により、時間短縮に取り組んだ。 <p>【病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、平成 30 年 10 月に患者アンケート調査を実施した。アンケート調査では、①味付け②品数③1 品の量④盛りつけ⑤温度⑥全体の 6 項目に分けて行った結果、平均で 91.4% の満足度評価を得た。 委託業者とは、毎月献立会議を開催し行事食や季節メニューを取り入れた。また、管理栄養士が調味料の調整を検食簿に記入し委託業者と協力してレシピを変更するなど、患者が食べやすいメニューを提供するよう調整を行った。 ○ 安佐市民病院では、平成 30 年 10 月に病院給食についてのアンケートを行った。満足と答えた割合は 87% であった。アンケート結果から改善した点は、以前から朝食改善の意見が多くあったこともあり、朝食に取り入れてほしい料理を聞き取り、卵料理を希望する患者が 48% と多かったため、オムレツやスクランブルエッグを加えて卵料理の回数を増やした。 ○ 舟入市民病院では、平成 30 年 8 月に病院給食についてのアンケートを行った。満足と答えた割合は 97.1% であった。献立等給食内容について委託業者と定期的に協議し、ご飯のかたさについて、米飯、全粥の 2 種類を提供していたが、軟飯を加え、患者の症状・好みに応じて提供するように改善を行った。 ○ リハビリテーション病院では、年 1 回全患者を対象に嗜好調査を実施し、意見を反映した献立に変更・追加したり、委託業者と連携し盛り付けの順番を見 			

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価	
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入退院支援の充実（広島市民病院） 入院支援室の相談窓口の増設整備後、全科の予定入院患者の支援の拡充 ・ 薬剤師外来の充実（広島市民病院） 	<p>直すなど業務の改善を図った。また、患者満足度アンケート調査では、食事についてアンケートの質問ごとに、回答内容を「良い」＝5点、「やや良い」＝4点、「やや悪い」＝2点、「悪い」＝1点として換算して平均点を算出し、「料理全体の印象」についての点数は5点満点中4.13点であった。</p> <p>【入退院支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタッフの増員などの体制強化により、地域の医療機関からのスムーズな患者の受け入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。 ○ 広島市民病院では、退院支援2,474件、退院時共同指導112件を実施した。 <p>【薬剤師外来の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、投薬窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を、平成30年10月から新たに入院支援室に2ブース設けて相談機能等の充実を図り、注射薬の抗がん剤のみならず経口薬の抗がん剤についても医師の診察前に患者面談による副作用のモニタリング、支持療法の提案、薬剤の用量調整等を実施した。 				

【目標値】患者満足度（単位：%）

区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値
広島市民病院	90.9	90.0
安佐市民病院	82.7	90.0
舟入市民病院	76.8	90.0
リハビリテーション病院	96.1	95.0

*病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合

【目標値】患者満足度（単位：%）

区分	平成 30 年度 目標値
広島市民病院	90.0
安佐市民病院	84.0
舟入市民病院	80.0
リハビリテーション病院	95.0

*病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合

【実績】患者満足度（単位：%）

区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
広島市民病院	90.9	83.1	93.0
安佐市民病院	82.7	74.3	71.4
舟入市民病院	76.8	79.5	79.8
リハビリテーション病院	96.1	96.6	96.3

*病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

中期目標	ア 地域全体でより良い医療を提供する観点から、基幹病院等のみならず、かかりつけ医を始めとする地域の医療機関との適切な役割分担と連携を図ること。
	イ 地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）を作成・運用するとともに、他の医療機関との診療情報の共有化などにより、急性期から回復期、在宅医療までの一貫性のある医療を提供すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>4 地域の医療機関等との連携 (大項目)</u>	<u>4 地域の医療機関等との連携 (大項目)</u>				
(1) 地域の医療機関との役割分担と連携	(1) 地域の医療機関との役割分担と連携				
<u>ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目）</u> 地域の医療機関や医師会との連携を強化し、地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受入れ、患者の紹介を積極的に行い、より多くの患者に必要とされる医療を提供する体制の維持に努めます。また、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携等については、市民にとってより良い地域医療を提供していくという観点に立って検討を行います。	<u>ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目）</u> ・各地区の医師会との意見交換の場の設置などによる顔の見える連携づくり ・医療支援センター等による連携の強化	<p>【各地区医師会との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地区医師会との交流、意見交換の場を通じて連携を深めた。 ○ 広島市民病院では、安芸地区医師会、佐伯区医師会、安佐医師会との交流会及びマルチケアフォーラムを行った。 ○ 安佐市民病院では、安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会、安佐歯科医師会との情報・意見交換会を平成30年11月に開催し、顔の見える連携づくりに取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、平成30年8月に中区在宅医療相談支援窓口を開設し、中区医師会との連絡会議を4回開催して意見交換を行った。 <p>【医療支援センター等による連携の強化等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に努めた。安佐市民病院では、入院支援センターを通じて地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）を強化し、連携対象周術期患者を拡げ、口腔機能の管理による合併症予防に努めた。舟入市民病院では医療支援室の事務員が引き続き地域の医療機 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 今後、更に逆紹介を進めることにより、地域の医療機関との連携を図ること。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価																																						
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																				
	<p>【目標値】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70.0</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>【目標値】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 30 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>71.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p>	区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	広島市民病院	70.0	74.0	安佐市民病院	80.3	82.5	舟入市民病院	31.0	35.0	区分	平成 30 年度 目標値	広島市民病院	71.0	安佐市民病院	80.3	舟入市民病院	31.0	<p>門を訪問する体制を維持した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、退院支援加算 1 を 2,474 件、退院時共同指導を 112 件実施した。 ○ 安佐市民病院では、平成 28 年 4 月から取得している退院支援加算 1 を、平成 30 年度は 2,487 件実施した。社会背景が複雑な患者や多くの医療処置を必要とする患者の退院を支援するために、入院支援センター・外来と連携した入院前カンファレンス・入院時支援を実施すると共に、退院前の地域・関連医療機関との合同カンファレンスを 90 件、介護支援連携を 170 件、退院直後の在宅訪問を 21 件実施した。 ○ 舟入市民病院では、医療支援室の医療ソーシャルワーカーや看護師配置を増員し体制を整備し、退院支援の充実を図った。 <p>【広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度は、会議が開催されなかったが、市民にとってより良い地域医療を提供していくために、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携について検討を進めていくこととした。 <p>【実績】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）</p> <p>(単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70.0</td> <td>71.8</td> <td>73.7</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> <td>85.2</td> <td>89.9</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> <td>31.9</td> <td>35.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送患者の数＋時間外における初診外来患者の数））×100</p>	区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	広島市民病院	70.0	71.8	73.7	安佐市民病院	80.3	85.2	89.9	舟入市民病院	31.0	31.9	35.6			
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値																																							
広島市民病院	70.0	74.0																																							
安佐市民病院	80.3	82.5																																							
舟入市民病院	31.0	35.0																																							
区分	平成 30 年度 目標値																																								
広島市民病院	71.0																																								
安佐市民病院	80.3																																								
舟入市民病院	31.0																																								
区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績																																						
広島市民病院	70.0	71.8	73.7																																						
安佐市民病院	80.3	85.2	89.9																																						
舟入市民病院	31.0	31.9	35.6																																						

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																																					
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号																																				
【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：%）	【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：%）	【実績】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：%）																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和1年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td><td>93.7</td><td>95.0</td></tr> <tr> <td>安佐市民病院</td><td>122.3</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>舟入市民病院</td><td>24.5</td><td>28.5</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値	広島市民病院	93.7	95.0	安佐市民病院	122.3	100.0	舟入市民病院	24.5	28.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td><td>94.2</td></tr> <tr> <td>安佐市民病院</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>舟入市民病院</td><td>25.5</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成30年度 目標値	広島市民病院	94.2	安佐市民病院	100.0	舟入市民病院	25.5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td><td>93.7</td><td>94.7</td><td>94.4</td></tr> <tr> <td>安佐市民病院</td><td>122.3</td><td>130.8</td><td>137.1</td></tr> <tr> <td>舟入市民病院</td><td>24.5</td><td>22.9</td><td>24.8</td></tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	広島市民病院	93.7	94.7	94.4	安佐市民病院	122.3	130.8	137.1	舟入市民病院	24.5	22.9	24.8				
区分	平成28年度 実績	令和1年度 目標値																																								
広島市民病院	93.7	95.0																																								
安佐市民病院	122.3	100.0																																								
舟入市民病院	24.5	28.5																																								
区分	平成30年度 目標値																																									
広島市民病院	94.2																																									
安佐市民病院	100.0																																									
舟入市民病院	25.5																																									
区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績																																							
広島市民病院	93.7	94.7	94.4																																							
安佐市民病院	122.3	130.8	137.1																																							
舟入市民病院	24.5	22.9	24.8																																							
<p>※1 患者逆紹介率=逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。</p>	<p>※1 患者逆紹介率=逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数））×100</p> <p>※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。</p>	<p>※患者逆紹介率=逆紹介患者の数／（初診患者の数－（救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数））×100</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院は、紹介率については、平成29年度及び目標を上回った。逆紹介率については、平成29年度を下回ったものの目標を上回った。 ○ 安佐市民病院は、紹介率、逆紹介率とも目標を達成した。 ○ 舟入市民病院は、紹介率については、平成29年度及び目標を上回った。逆紹介率については、平成29年度を上回ったものの、目標を下回った。 																																								
<p><u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u></p> <p>一貫性のある医療を提供し、治療効果の一層の向上を図るために、地域連携クリニカルバス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）の作成・運用の拡大に取り組みます。</p>	<p><u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関と連携した地域連携クリニカルバスの運用の拡大 	<p>【地域連携クリニカルバスの運用拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地域連携クリニカルバスの運用の拡大に努めた。 ○ 広島市民病院では、地域連携クリニカルバスの運用を拡大するため、医療者がん研修会（2月に1回）、がんセミナー（年5回）、マルチケアフォーラム（年2回）を定期的に開催し、連携病院に参加の案内を呼びかけ、研修会等を通じて参加者と同病院との医療連携を深めた。また、がん患者を紹介する際、紹介先の医療機関に対しがん連携病院の登録を呼びかけた。 ○ 安佐市民病院では、年に1回、地域の開業医・勤務医等と合同で研修会を実施して、地域連携クリニカルバスの運用の拡大に努めた。 ○ リハビリテーション病院では、地域連携活動を継続して実施することにより、地域連携クリニカルバス対象疾患（脳卒中・大腿骨頭部骨折）患者の紹介入院の増加に努めた。 		3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																																				

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価																																		
	年度計画	評価理由等					記号	評価理由・コメント等	記号																																	
	<p>・中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院）</p>	<p>(地域連携クリニカルバスの種類及び適用件数)</p> <p>(各年度 3月末現在 単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> <th colspan="2">平成 30 年度</th> </tr> <tr> <th>種類 件数</th> <th>適用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>適用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>適用 件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>10</td> <td>546</td> <td>10</td> <td>448</td> <td>11</td> <td>534</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>11</td> <td>519</td> <td>11</td> <td>461</td> <td>11</td> <td>499</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>2</td> <td>131</td> <td>2</td> <td>148</td> <td>2</td> <td>188</td> </tr> </tbody> </table> <p>【在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院）】</p> <p>○ 舟入市民病院では、中区医師会と協力し、平成 30 年 8 月より中区在宅医療相談支援窓口を開設、在宅からの緊急入院（サブアキュート）を積極的に受け入れ、地域に根ざした医療が提供できるよう連携した。</p>	区分	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		種類 件数	適用 件数	種類 件数	適用 件数	種類 件数	適用 件数	広島市民病院	10	546	10	448	11	534	安佐市民病院	11	519	11	461	11	499	リハビリテーション病院	2	131	2	148	2	188						
区分	平成 28 年度			平成 29 年度		平成 30 年度																																				
	種類 件数	適用 件数	種類 件数	適用 件数	種類 件数	適用 件数																																				
広島市民病院	10	546	10	448	11	534																																				
安佐市民病院	11	519	11	461	11	499																																				
リハビリテーション病院	2	131	2	148	2	188																																				

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(2) 地域の医療機関への支援

中期目標	ア 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用などにより、地域の医療機関を支援すること。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会の開催などにより、地域の医療人材の育成に努めること。
	イ 安佐市民病院の北館に整備する病院（以下「北館の病院」という。）等の関係医療機関への医師の派遣等に取り組むとともに、北館の病院が本市の医療政策を支える病院として、建替え後の安佐市民病院と連携して地域医療を担うことができるよう、本市や関係機関と協議の上、北館の病院に十分な支援を行うこと。
	ウ 建替え後の安佐市民病院は、県北西部地域の公立病院等とのネットワークの中で中核病院としての役割を果たしていくことを踏まえ、地域完結型医療の提供に向けた取組を進める
	こと。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価																					
	年度計画		記号	評価理由・コメント等																				
(2) 地域の医療機関への支援	(2) 地域の医療機関への支援																							
ア 高度医療機器の共同利用 <u>(小項目)</u> 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用の促進により、地域の医療水準の向上を図ります。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会等を開催し、市立病院における症例や医療技術等の医療情報を提供することなどにより、地域の医療人材の育成に協力するとともに、「顔の見える連携関係」を構築します。	ア 高度医療機器の共同利用 <u>(小項目)</u> ・高度医療機器の共同利用の促進	<p>【高度医療機器の共同利用等の促進】</p> <p>○ 平成30年度は以下のとおり、地域の医療機関による高度医療機器の共同利用が行われた。</p> <table border="1"> <caption>(平成30年度高度医療機器共同利用件数) (件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>C T</th> <th>M R I</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>227</td> <td>127</td> <td>88</td> <td>442</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>1,121</td> <td>349</td> <td>704</td> <td>2,174</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) その他の主な内訳は、胃カメラ・胃ろう交換など</p> <p>○ 開放型病床は、広島市民病院が34床設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は平成30年度末で273名、平成30年度の病床利用率は73.9%であった。また、院内に開放病床運営委員会を設け、活用の促進等について協議、検討を行った。安佐市民病院では9床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は平成30年度末で366名、利用率は100%であった。</p>	区分	C T	M R I	その他	合計	広島市民病院	227	127	88	442	安佐市民病院	1,121	349	704	2,174	リハビリテーション病院	—	1	—	1	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。
区分	C T	M R I	その他	合計																				
広島市民病院	227	127	88	442																				
安佐市民病院	1,121	349	704	2,174																				
リハビリテーション病院	—	1	—	1																				

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																		
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療従事者を対象とした各種研修会等の開催 	<p>【各種研修会等の開催】</p> <p>○ 平成 30 年度は以下のとおり、各病院において研修会等及びオープンカンファレンスを開催した。</p> <p>(平成 30 年度研修会等・オープンカンファレンスの開催状況)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">研修会等</th> <th colspan="2">オープンカンファレンス</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>11回</td> <td>1,093人</td> <td>17回</td> <td>539人</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>20回</td> <td>861人</td> <td>8回</td> <td>151人</td> </tr> <tr> <td>赤穂市民病院</td> <td>3回</td> <td>82人</td> <td>1回</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>4回</td> <td>90人</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38回</td> <td>2,126人</td> <td>26回</td> <td>719人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 安佐市民病院では、WEB会議システムを用いて関係病院と意見交換を行った。</p>	区分	研修会等		オープンカンファレンス		回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	広島市民病院	11回	1,093人	17回	539人	安佐市民病院	20回	861人	8回	151人	赤穂市民病院	3回	82人	1回	29人	リハビリテーション病院	4回	90人	-	-	計	38回	2,126人	26回	719人				
区分	研修会等			オープンカンファレンス																																				
	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数																																				
広島市民病院	11回	1,093人	17回	539人																																				
安佐市民病院	20回	861人	8回	151人																																				
赤穂市民病院	3回	82人	1回	29人																																				
リハビリテーション病院	4回	90人	-	-																																				
計	38回	2,126人	26回	719人																																				
<p><u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u></p> <p>広島市や関係機関と協議の上、安佐市民病院の北館に整備する病院への医師の派遣等に取り組むとともに、当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の改修等の支援を行います。</p>	<p><u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安佐市民病院の北館に整備する病院への医師の派遣等の準備への取組の推進 ・当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の整備計画の策定 	<p>【安佐市民病院の北館に整備する病院への支援】</p> <p>○ 広島市、安佐医師会、法人の3者による「安佐市民病院の北館に整備する病院の準備調整会議」を5回開催し、病院の医療機能、整備計画及び開設に向けた準備体制などについて協議を行った。</p> <p>【北館に整備する病院の整備計画の策定】</p> <p>○ 建物の整備計画についてのとりまとめを終え、平成30年10月に実施設計に着手した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																																			

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目） 県北西部地域の関係機関と連携し、地域内の医療機関の役割分担と再編を行い、それぞれの医療機関が連携し相互補完を行う地域完結型の医療の提供に向けた取組を行います。	ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目） ・地域医療構想調整会議北部病院部会への参画等による、地域完結型医療の提供体制の構築に向けた取組	<p>【安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島医療圏北部地域における地域完結型医療の提供体制の構築を行うため地方自治体、公立・公的病院及び医師会を構成員とする「広島医療圏北部地域公立・公的病院連携会議」を平成 30 年 4 月から開催し、同年 9 月にはそれぞれの病院が担う役割を明確にするとともに、その役割を担うために行う病床の再編などの取組についてとりまとめを行った。 ○ 「広島医療圏北部地域公立・公的病院連携会議」でとりまとめた内容を「地域医療構想調整会議北部病院部会」及び「地域医療構想調整会議」に協議し了承を得た。 ○ 「広島県医療審議会」の承認後、病床の再編に当たり、手続き上必要となる厚生労働省の同意を得た。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(3) 保健機関、福祉機関との連携

中期目標	ア 保健所や福祉事務所等と連携して、疾病の予防や再発防止に取り組むこと。 イ 病院を退院した患者が円滑に在宅医療に移行するための支援を行うこと。また、地域包括支援センターや介護サービス事業所等との連携を図ることで、地域包括ケアシステムの構築に取り組むこと。
------	---

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(3) 保健機関、福祉機関との連携	(3) 保健機関、福祉機関との連携			
ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目） 高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するため、保健所等と連携し、疾病的予防や再発防止等に取り組むとともに、退院前から地域包括支援センター、介護サービス事業所等と連携し、患者の退院後の療養や介護などを支援します。	ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目） ・高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携	<p>【高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、救急医療コントロール機能運営協議会を2回開催し、広島市健康福祉局保健部医療政策課及び支援病院と受け入れ困難事案の総合的対策について協議・調整を行った。 ○ 安佐市民病院では、保健センター（安佐南区・安佐北区）と精神障害者に係る事例検討会や情報交換会を延べ4回開催した。また、特定妊婦など複雑な家庭環境により育児が困難と予測される場合や高齢者虐待の疑われるケースなどについて、患者・家族の不安軽減や継続した支援・介入につながるよう保健センターと情報共有し連携を図った。 ○ 舟入市民病院では、広島市が実施する市政出前講座等でスキンケアに関する講習（2回）、摂食嚥下に関する講習（5回）、感染症に関する講習（9回）、緩和ケアに関する講習（2回）、小児救急に関する講習（1回）を行った。 ○ リハビリテーション病院では、市民公開講座においてフレイルの基礎知識のほかフレイル予防に役立つ生活チェックや栄養に関する講演や、フレイル予防体操の実演を行った。また、広島市が実施する市政出前講座においてリハビリテーション医療の流れや脳卒中のリハビリテーションなどに関する講習や講演を3回行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
	・退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援	<p>【退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養などの支援を行った。 ○ 広島市民病院では、中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業に後方支援病院として参加した。 ○ 安佐市民病院では、入院早期から介護保険施設や居宅介護支援事業所、障害者相談支援事業所等の福祉機関へ連絡し、同病院にて患者、家族及び福祉機関の担当者とカンファレンス等を行っている。そのカンファレンスで情報共有や連携を図りながら、患者、家族が安心して退院ができるよう支援を図った。 		
イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目） 高齢者が疾病を抱えても住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括ケアシステム構成員として、各病院が現在担っている機能を維持・強化するとともに、かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、患者・家族の療養生活を支援して包括的かつ継続的な在宅医療等の提供の一翼を担います。	イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目） ・地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化	<p>【地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関との連携をよりスムーズに行うため、地域包括支援センター等との情報の交換、交流の場を隨時設けた。特に安佐市民病院では、安佐北区や安佐南区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、安佐北区役所厚生部健康長寿課、安佐医師会で構成する地域包括連携会議を設け、地域医療連携マップの作成や研修会の開催等を行うとともに、患者の同意を得た上で、その情報の共有化を図った。 ○ 舟入市民病院においては、平成27年度途中から地域包括ケア病床（6階病棟のうち10床）を導入し運用しており、平成30年度の病床利用率は60.1%であった。医療支援室職員が開業医への訪問（面会）を延べ569件を行い、積極的に連携づくりを行い、高齢者の生活支援に取り組んだ。 また、地域の医療・介護力の質向上と地域のコメディカルを含む多職種との連携（ネットワーク作り）を目的に、多職種合同地域連携研修会を年3回行い、顔の見える連携を図った。 ○ リハビリテーション病院では、広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立上げ・運営の支援や、要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハ職を派遣するため、安佐南区におけるリハ職の派遣調整を行う業務を広島市から受託し実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号									
	年度計画	評価理由等														
	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供 ・中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院） 	<p>(リ)ハ派遺調整業務の実績)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">平成 30 年度 派遣調整人数</th> <th style="text-align: center;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td style="text-align: center;">221 人</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 46 人</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td style="text-align: center;">12 人</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 3 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供】</p> <p>○ リハビリテーション病院では、安佐医師会、安佐南区役所厚生部健康長寿課、医療機関、地域包括支援センター、介護サービス事業所等で構成する安佐南区地域包括エリア毎在宅医療連携推進会議や地域の医療機関、介護サービス事業所等の従事者で構成する安佐南区回復期生活期連携推進の会に参加し、かかりつけ医を含めた地域の医療機関と連携することで、地域における在宅医療・介護の連携推進を図った。</p> <p>【在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院）】</p> <p>○ 舟入市民病院では、中区医師会と協力し、平成 30 年 8 月より中区在宅医療相談支援窓口を開設、在宅からの緊急入院（サブアキュート）を積極的に受け入れ、地域に根ざした医療が提供できるよう連携した。</p>	区分	平成 30 年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	221 人	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 46 人	介護予防ケアマネジメントの支援	12 人	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 3 人					
区分	平成 30 年度 派遣調整人数	備考														
介護予防拠点整備における支援	221 人	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 46 人														
介護予防ケアマネジメントの支援	12 人	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 3 人														

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市立病院間の連携の強化

(1) 一つの病院群としての病院運営の推進

(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用

中期目標	ア 市立病院間の相互連携や効果的なマンパワーの活用による交流を進めることで、各病院の医療機能を補完するとともに、4病院が一つの病院群として、本市の医療施策上必要な医療を提供すること。特に、広島市民病院と舟入市民病院の連携強化により、効果的かつ効率的な病院運営を一層進めること。また、本市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院とも、引き続き連携を図ること。
	イ 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）等の活用により、効率的で質の高い医療を提供すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
5 市立病院間の連携の強化（大項目）	5 市立病院間の連携の強化（大項目）			
(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）	(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）			
<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合い、一つの病院群として、広島市の医療施策上必要な医療を提供するとともに、各病院の役割の見直しや連携強化などを進め、効果的かつ効率的な病院運営を行います。 ・病院間の人事交流など効果的なマンパワーを活用し、各病院が必要とする人材の育成や、病院間の連携を推進します。 ・広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院との連携を図り、患者の受け入れや紹介を積極的に行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的、効果的な病院運営 ・安佐南区の医療需要の動向等を踏まえた役割分担の下、広島市民病院と安佐市民病院との連携と協調 ・急性期から回復期までのリハビリテーションを継続的・一体的提供を図るため、リハビリテーション病院と広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・広島市民病院と舟入市民病院との連携強化 ・病院間の人事交流 	<p>【効率的、効果的な病院運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長、総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。また、理事長は、毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 ○ リハビリテーション病院では、広島市民病院・安佐市民病院と連携し、両病院から急性期医療を終えた多くの患者を受け入れた。平成30年度は広島市民病院から153人、安佐市民病院から64人の患者を受け入れた（計217人。リハビリテーション病院の入院患者全体の47.1%）。また、リハビリテーション病院は、広島市民病院から平成30年度325件のMRI検査の依頼を受けた。 ○ 広島市民病院と舟入市民病院の連携については、広島市民病院から舟入市民病院へ手術件数32件の紹介を行うとともに外科医の派遣を行った。また、舟入市民病院では、広島市民病院から急性期医療を終えた患者の受け入れを積極的に行い、平成30年度は562人の入院等患者を受け入れた。また、MRI検査についても広島市民病院から258人の患者を受け入れた。 ○ 広島市民病院は、婦人科、乳腺外科、脳神経外科・脳血管内治療科の医師、放射線技師、臨床検査技師を舟入市民病院健康管理センターに派遣し、様々な検査データの読影及び診断を行い、その運営を支援した。 <p>【病院間の人事交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の適性等を生かし、各病院運営の活性化を図るため、平成30年度は以下のとおり、病院間における異動を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。
				3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
		<p>(平成 30 年度病院間異動者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【各病院の職員が協議、交流する場づくり】</p> <p>○ 病院の枠を越えて、採用、職員配置、業務内容等の現状と課題等について、協議、交流、検討する場として、以下の職種について、各病院の責任者が出席する部門会議を開催した。</p> <p>【部門会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・薬剤師 ・臨床検査技師 ・診療放射線技師 ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ・臨床工学技士 ・栄養士 ・医療ソーシャルワーカー ・診療情報管理士 ・事務職 ・保健師・心理療法士 <p>【安芸市民病院との連携】</p> <p>○ 各病院において、安芸市民病院との連携強化、受入体制の強化を図ることにより、紹介・逆紹介を積極的に行った。</p>	区分	異動者数	看護師	7人	薬剤師	8人	診療放射線技師	6人	理学療法士	9人	作業療法士	4人	医療ソーシャルワーカー	3人	歯科衛生士	1人	臨床検査技師	4人	計	42人			
区分	異動者数																								
看護師	7人																								
薬剤師	8人																								
診療放射線技師	6人																								
理学療法士	9人																								
作業療法士	4人																								
医療ソーシャルワーカー	3人																								
歯科衛生士	1人																								
臨床検査技師	4人																								
計	42人																								

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号															
		<p>(平成 30 年度安芸市民病院、紹介・逆紹介件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>安芸市民病院から の紹介件数</th> <th>安芸市民病院への 逆紹介件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>34 件</td> <td>81 件</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>1 件</td> <td>15 件</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>23 件</td> <td>12 件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>58 件</td> <td>108 件</td> </tr> </tbody> </table>		区分	安芸市民病院から の紹介件数	安芸市民病院への 逆紹介件数	広島市民病院	34 件	81 件	安佐市民病院	1 件	15 件	舟入市民病院	23 件	12 件	計	58 件	108 件			
区分	安芸市民病院から の紹介件数	安芸市民病院への 逆紹介件数																			
広島市民病院	34 件	81 件																			
安佐市民病院	1 件	15 件																			
舟入市民病院	23 件	12 件																			
計	58 件	108 件																			
(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用（小項目） 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）の運用等により、4 病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進します。また、同システムを活用し、地域の医療機関との診療情報の共有化等を行います。	(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用（小項目） ・広島市立病院機構医療情報システムによる、4 病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進 ・ひろしま医療情報ネットワークの活用による、地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供	<p>【4 病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 27 年度に更新等を実施した 4 病院の病院総合情報システムにおいて、電子カルテを中心としたシステムの円滑な運用を行うとともに、4 病院間の円滑な情報伝達、共有化を実施した。 <p>【地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 29 年 4 月からひろしま医療情報ネットワークに開示病院として参加し、約 1,000 の医療機関（平成 31 年 3 月 31 日時点）、薬局等と連携して診療情報の共有化を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力

中期目標	本市が実施する保健、医療、福祉、教育などの施策に協力するとともに、市行政全般との連携に努めること。				
中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目） 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力については、引き続き、広島市の担当する部局との連携を維持し、広島市が実施する保健や医療、福祉、教育に係る施策に協力をします。	6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力 ・広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整 ・重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施（舟入市民病院） ・自殺未遂者支援コーディネーターによる相談業務の実施（広島市民病院・安佐市民病院） ・中学生を対象としたがん教育の実施（広島市民病院・安佐市民病院） 	<p>【広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立看護専門学校の実習生の受け入れや講師としての医師及び看護師の派遣、広島市及び北広島町の消防士の救急救命教育の受け入れ、広島市立特別支援学校の修学旅行への医師同行派遣等を行った。 <p>【保健医療福祉担当部局との情報共有等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。 <p>【重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舟入市民病院では、引き続きレスパイトケア（重症心身障害児（者）医療型短期入所事業）を実施し、延べ 628 人（広島市外の利用者を含む。）の入所者を受け入れた。 <p>【自殺未遂者支援コーディネーターによる相談業務の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に努めた。 ○ 安佐市民病院では、平成 30 年 4 月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行った。 <p>【中学生を対象としたがん教育の実施】 (広島市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「がん教育出前授業」として、平成 31 年 1 月 22 日に吉島中学校、同月 29 日に己斐上中学校、同年 2 月 7 日に戸坂中学校において、広島県第 3 次がん対策推進計画の学校教育におけるがん教育の実践及び学校保健計画のがん教育に沿った講義を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		(安佐市民病院) ○ 安佐北区内の4つの中学校に対して、「安佐市民病院によるがん教育出前授業」を開催し、延べ475人の参加があった。			